

平成 15 年度 宮崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工・教育文化・農学部 平成 15 年 2 月 25 日

- 工学部 [1] [2] [3] [4] 必答, [5] [6] [7] から 1 題選択. 数 II・III・B(120 分)
- 教育文化(中学[理系], 生活文化[生活環境コース])学部 [2] [8] 必答,
[5] [6] [7] から 1 題選択. 数 II・B(90 分)
- 教育文化(初等教育コース, 中学[文系], 障害児コース)学部・農(食料生産科学・生物環境科学・地域農業システム・獣医)学部 [2] [9] 必答,
[10] [11] [12] から 1 題選択. 数 II・A(90 分)

[1] x, y を実数とするとき, 次の各問に答えよ.

- (1) 等式 $\sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x+y) = 2 - 2 \cos x \cos y \cos(x+y)$ が成り立つことを示せ.
- (2) $x > 0, y > 0, x+y < \pi$ とする. $\sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x+y) > 2$ であるとき, 不等式 $x+y > \frac{\pi}{2}$ が成り立つことを示せ.

[2] 座標平面上で, x 軸までの距離と直線 $y = \frac{3}{4}x$ までの距離の和が 1 以下である点全体からなる領域を D とする. このとき, 次の各問に答えよ.

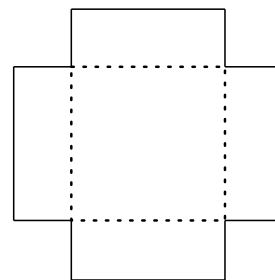
- (1) 領域 D を図示せよ.
- (2) 点 (x, y) が領域 D 上を動くとき, $x+y$ が最大となる点の座標を求めよ.

[3] 座標平面上で, t を媒介変数として表される曲線 $C: x = a \cos t, y = b \sin t$ ($a > 0, b > 0, 0 \leq t \leq 2\pi$) について, 次の各問に答えよ.

- (1) x, y の満たす関係式を求めよ.
- (2) $0 \leq x \leq a \cos \theta$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) において, 曲線 C , y 軸および直線 $x = a \cos \theta$ によって囲まれる部分の面積 $S(\theta)$ を求めよ.
- (3) 極限值 $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{2}-0} \frac{S(\theta)}{\frac{\pi}{2} - \theta}$ を求めよ. ただし, $\theta \rightarrow \frac{\pi}{2} - 0$ は, θ が $\frac{\pi}{2}$ より小さい値をとりながら $\frac{\pi}{2}$ に限りなく近づくことを表す.

- 4 関数 $f(x) = ae^{2x}$ (a は定数) について, 曲線 $y = f(x)$ 上の点 $(b, f(b))$ における接線が $y = x$ であるとき, 次の各問に答えよ. ただし, e は自然対数の底で, $e = 2.718\cdots$ である.
- (1) a と b の値を求めよ.
 - (2) $g(x) = f(x) - x$ とおくと, $0 \leq x \leq 1$ における $g(x)$ の最大値と最小値を求めよ.
 - (3) $y = f(x)$ の逆関数を $y = f^{-1}(x)$ と表す. このとき, 曲線 $y = f(x)$, $y = f^{-1}(x)$, x 軸および y 軸によって囲まれる部分の面積を求めよ.
- 5 四面体 $OABC$ において, $OA = OC$ であるとする. さらに, BC を $1:2$ に内分する点を D , AD を $3:1$ に内分する点を E とするとき, $OE \perp AC$ であるとする. $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$, $\vec{OE} = \vec{e}$ とおくと, 次の各問に答えよ.
- (1) \vec{e} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ.
 - (2) $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c}$ であることを示せ. ただし, 記号 $\vec{x} \cdot \vec{y}$ はベクトル \vec{x} と \vec{y} の内積を表す.
 - (3) $OA : OB = 2 : 1$, $OE \perp BC$ であるとき, $\angle AOC$ を求めよ.
- 6 点 O を原点とする複素数平面上で, 2つの複素数 α , β を表す点をそれぞれ A , B とする. α , β が $\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^2 - \frac{\beta}{\alpha} + 1 = 0$ を満たすとき, 次の各問に答えよ.
- (1) $\triangle OAB$ は正三角形であることを示せ.
 - (2) 複素数 $1+i$ を表す点を C とする. 正三角形 OAB の1辺の長さが1であり, $\triangle OAB$ が直線 OC に関して対称であるとき, 複素数 α , β を求めよ. ただし, α の実部は β の実部より大きく, ともに正とする.
- 7 2個のさいころを同時に1回投げる. 出る目の和を5で割った余りを X , 出る目の積を5で割った余りを Y とする. このとき, 次の各問に答えよ.
- (1) $Y \geq 1$ である確率を求めよ.
 - (2) $X = 2$ または $Y = 2$ である確率を求めよ.
 - (3) $X = 2$ である条件のもとで $Y = 2$ である確率を求めよ.

- 8 1辺の長さが24cmの正方形の厚紙の4すみから合同な正方形を切りとり、その残りの部分(右図)を点線に沿って折り曲げてふたのない箱Aを作る. 同様に1辺の長さが36cmの正方形の厚紙からふたのない箱Bを作る. ここで、箱A, Bの底面が合同な正方形となるように作るものとする. このとき、2つの箱A, Bの容積の和の最大値を求めよ. ただし、紙の厚みの影響は考えないものとする.



- 9 次の各問に答えよ.

- (1) 2つの角 α , β について、等式

$$\sin^2 \alpha + \sin^2 \beta + \sin^2(\alpha + \beta) + 2 \cos \alpha \cos \beta \cos(\alpha + \beta) = 2$$

が成り立つことを示せ.

- (2) 実数 a , b , c が

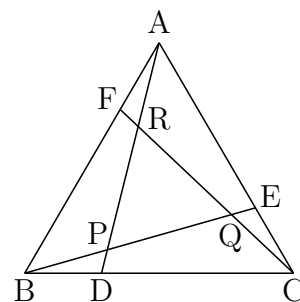
$$a = \log_{\frac{1}{4}} 5, \quad b = 2 \log_{\frac{1}{2}} \sqrt{5}, \quad 2^{ac} = 5$$

を満たすとき、 a , b , c の大小関係を調べよ.

- 10 実数 a , b , c について $f(x) = ax^2 + bx + c$ とおく. $f(0)$, $f(1)$, $f(2)$ がいずれも整数であるとき、次の各問に答えよ.

- (1) $2a$, $2b$ はともに整数であることを示せ.
 (2) すべての整数 n について、 $f(n)$ は整数であることを示せ.

- 11 右図の正三角形 ABC において、辺 BC, CA, AB を $m : n$ ($0 < m < n$) に内分する点をそれぞれ D, E, F とする. また、線分 AD と BE の交点を P, 線分 BE と CF の交点を Q, 線分 CF と AD の交点を R とする. このとき、次の各問に答えよ.



- (1) $\triangle PQR$ は正三角形であることを示せ.
 (2) $AR : AP = m : n$ であることを示せ.

- 12 $a_1 = \frac{q}{p}$ ($p > q > 0$), $a_{n+1} = \frac{1}{2 - a_n}$ ($n = 1, 2, \dots$) で定義された数列 $\{a_n\}$ について、次の各問に答えよ.

- (1) a_2 , a_3 , a_4 を求めよ.
 (2) 一般項 a_n を推定し、 n , p , q を用いて表せ. さらに、その推定が正しいことを数学的帰納法を用いて証明せよ.

解答例

$$\begin{aligned}
 \text{1} \quad (1) \quad & \sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x+y) \\
 &= \frac{1}{2}(1 - \cos 2x) + \frac{1}{2}(1 - \cos 2y) + 1 - \cos^2(x+y) \\
 &= 2 - \frac{1}{2}(\cos 2x + \cos 2y) - \cos^2(x+y) \\
 &= 2 - \cos(x+y) \cos(x-y) - \cos^2(x+y) \\
 &= 2 - \{\cos(x-y) + \cos(x+y)\} \cos(x+y) \\
 &= 2 - 2 \cos x \cos y \cos(x+y)
 \end{aligned}$$

(2) $\sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x+y) > 2$ のとき, (1) の結果から

$$2 - 2 \cos x \cos y \cos(x+y) > 2 \quad \text{ゆえに} \quad \cos x \cos y \cos(x+y) < 0 \quad \cdots (*)$$

$x > 0, y > 0, x+y < \pi$ のとき, $x+y \leq \frac{\pi}{2}$ と仮定すると

$$0 < x < \frac{\pi}{2}, \quad 0 < y < \frac{\pi}{2}, \quad 0 < x+y \leq \frac{\pi}{2}$$

したがって $\cos x > 0, \cos y > 0, \cos(x+y) \geq 0$

これは, (*) に矛盾する. よって, $x+y > \frac{\pi}{2}$ が成り立つ. ■

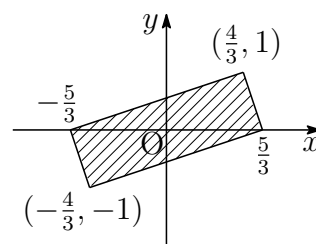
2 (1) 領域 D 内の点 (x, y) について, 条件から, 次式が成り立つ.

$$|y| + \frac{|3x - 4y|}{5} \leq 1$$

ここで, $y = s, 3x - 4y = 5t$ とおくと

$$(x, y) = s \left(\frac{4}{3}, 1 \right) + t \left(\frac{5}{3}, 0 \right), \quad |s| + |t| \leq 1$$

D は 4 点 $(\frac{4}{3}, 1), (\frac{5}{3}, 0), (-\frac{4}{3}, -1), (-\frac{5}{3}, 0)$ を頂点する平行四辺形の周およびその内部であり, 右の図の斜線部分.



$$(2) \quad x + y = \left(\frac{4}{3}s + \frac{5}{3}t \right) + s = \frac{7}{3}s + \frac{5}{3}t$$

上式から, $x+y$ が最大となるとき, $s \geq 0, t \geq 0$ であるから $(s+t \leq 1)$

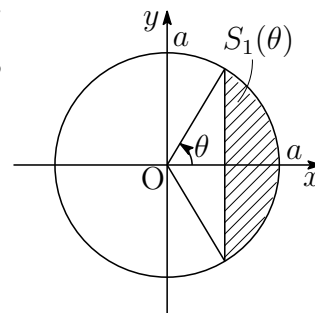
$$s = 1, t = 0 \quad \text{すなわち} \quad (x, y) = \left(\frac{4}{3}, 1 \right) \quad \text{のとき最大値} \quad \frac{7}{3} \quad \text{■}$$

3 (1) $x = a \cos t, y = b \sin t$ より $\cos t = \frac{x}{a}, \sin t = \frac{y}{b}$

これを $\cos^2 t + \sin^2 t = 1$ に代入して $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$

(2) $a > 0, 0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ とする. $a \cos \theta \leq x \leq a$ において, 円 $x^2 + y^2 = a^2$, 直線 $x = a \cos \theta$ によって囲まれる部分の面積を $S_1(\theta)$ とすると

$$\begin{aligned} S_1(\theta) &= \frac{1}{2} a^2 \cdot 2\theta - \frac{1}{2} a^2 \sin 2\theta \\ &= a^2 \left(\theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right) \end{aligned}$$



$0 \leq x \leq a \cos \theta$ において, 円 $x^2 + y^2 = a^2$, y 軸および $x = a \cos \theta$ によって, 囲まれる部分の面積を $S_2(\theta)$ とすると

$$S_2(\theta) = \frac{1}{2} \pi a^2 - S_1(\theta) = a^2 \left\{ \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right) + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right\}$$

C は円 $x^2 + y^2 = a^2$ を x 軸をもとに y 軸方向に $\frac{b}{a}$ 倍だけ拡大したものであるから

$$S(\theta) = S_2(\theta) \times \frac{b}{a} = ab \left\{ \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right) + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right\}$$

(3) (2) の結果から $\frac{S(\theta)}{\frac{\pi}{2} - \theta} = ab \left\{ 1 + \frac{\sin 2 \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right)}{2 \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right)} \right\}$

よって $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{2} - 0} \frac{S(\theta)}{\frac{\pi}{2} - \theta} = 2ab$ ■

4 (1) $f(x) = ae^{2x}, f'(x) = 2ae^{2x}$

曲線 $y = f(x)$ の点 $(b, f(b))$ における接線の方程式が $y = x$ であるから

$$f(b) = b, f'(b) = 1 \quad \text{ゆえに} \quad ae^{2b} = b, \quad 2ae^{2b} = 1$$

これを解いて $a = \frac{1}{2e}, b = \frac{1}{2}$

(2) (1) の結果から $g(x) = f(x) - x = \frac{1}{2}e^{2x-1} - x$

これを微分すると $g'(x) = e^{2x-1} - 1$

したがって、 $g(x)$ の増減表は次のようになる。

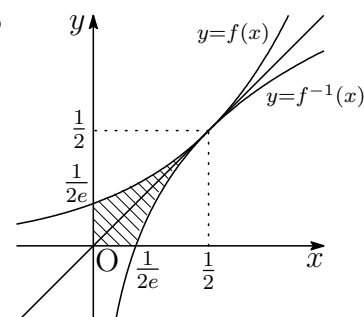
x	0	...	$\frac{1}{2}$...	1
$g'(x)$		-	0	+	
$g(x)$	$\frac{1}{2e}$	\searrow	0	\nearrow	$\frac{e}{2} - 1$

ここで $g(1) - g(0) = \frac{e}{2} - 1 - \frac{1}{2e} = \frac{1}{2} \left(e - \frac{5}{2} \right) + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{e} \right) > 0$

よって $x = 1$ のとき最大値 $\frac{e}{2} - 1$, $x = \frac{1}{2}$ のとき最小値 0

(3) 求める面積を S とすると、図の斜線部分であるから

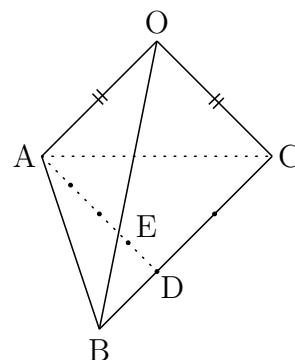
$$\begin{aligned} \frac{S}{2} &= \int_0^{\frac{1}{2}} \{f(x) - x\} dx = \int_0^{\frac{1}{2}} g(x) dx \\ &= \int_0^{\frac{1}{2}} \left(\frac{1}{2}e^{2x-1} - x \right) dx \\ &= \left[\frac{1}{4}e^{2x-1} - \frac{x^2}{2} \right]_0^{\frac{1}{2}} = \frac{1}{8} - \frac{1}{4e} \end{aligned}$$



よって $S = \frac{1}{4} - \frac{1}{2e}$



$$\begin{aligned}
 \vec{e} &= \frac{1}{4}(\vec{OA} + 3\vec{OD}) \\
 &= \frac{1}{4} \left\{ \vec{a} + 3 \times \frac{2\vec{OB} + \vec{OC}}{3} \right\} \\
 &= \frac{1}{4}(\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c})
 \end{aligned}$$



(2) $OE \perp AC$ より, $\vec{e} \cdot \vec{AC} = 0$ であるから

$$\begin{aligned}
 4\vec{e} \cdot \vec{AC} &= (\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) \cdot (\vec{c} - \vec{a}) \\
 &= |\vec{c}|^2 - |\vec{a}|^2 + 2(\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) = 0
 \end{aligned}$$

OA = OC より, $|\vec{a}| = |\vec{c}|$ を上式に代入すると

$$2(\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) = 0 \quad \text{よって} \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c}$$

(3) $OE \perp BC$ より, $\vec{e} \cdot \vec{BC} = 0$ であるから

$$\begin{aligned}
 4\vec{e} \cdot \vec{BC} &= (\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) \cdot (\vec{c} - \vec{b}) \\
 &= (\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) + \vec{a} \cdot \vec{c} - 2|\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 = 0 \quad \dots (*)
 \end{aligned}$$

OA = OC, OA : OB = 2 : 1 より, $|\vec{a}| : |\vec{b}| : |\vec{c}| = 2 : 1 : 2$ であるから

$$|\vec{b}|^2 = \frac{1}{4}|\vec{a}||\vec{c}|, \quad |\vec{c}|^2 = |\vec{a}||\vec{c}|$$

上式および(1)の結果を(*)に代入すると

$$\vec{a} \cdot \vec{c} - \frac{1}{2}|\vec{a}||\vec{c}| + |\vec{a}||\vec{c}| = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{\vec{a} \cdot \vec{c}}{|\vec{a}||\vec{c}|} = -\frac{1}{2}$$

\vec{a} と \vec{c} のなす角を θ とすると

$$\cos \theta = -\frac{1}{2} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{2}{3}\pi$$

よって $\angle AOC = \frac{2}{3}\pi$ ■

6 (1) $\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^2 - \frac{\beta}{\alpha} + 1 = 0$ より

$$\frac{\beta}{\alpha} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3}$$

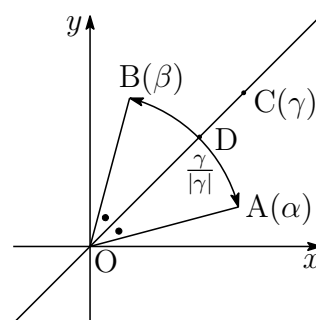
したがって $\left|\frac{\beta}{\alpha}\right| = 1$ ゆえに $|\beta| = |\alpha|$, $\arg\left(\frac{\beta}{\alpha}\right) = \pm \frac{\pi}{3}$

よって, $OA = OB$, $\angle AOB = \frac{\pi}{3}$ より, $\triangle OAB$ は正三角形である.

(2) 点 D を $\frac{\gamma}{|\gamma|}$ とすると

$$\frac{\gamma}{|\gamma|} = \frac{1}{\sqrt{2}}(1 + i)$$

右の図から 2 点 A, B は, 点 D をそれぞれ
原点 O を中心に $-\frac{\pi}{6}$, $\frac{\pi}{6}$ だけ回転させた
ものであるから



$$\begin{aligned} \alpha &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1 + i) \left(\cos \frac{\pi}{6} - i \sin \frac{\pi}{6} \right) \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1 + i) \left(\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4}i \\ \beta &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1 + i) \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1 + i) \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}i \end{aligned}$$

解説 α, β は

$$\begin{aligned} \alpha &= \cos \frac{1}{12}\pi + i \sin \frac{1}{12}\pi = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4}i \\ \beta &= \cos \frac{5}{12}\pi + i \sin \frac{5}{12}\pi = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}i \end{aligned}$$



7 (1) 求める確率は

$$\begin{aligned} P(Y \geq 1) &= 1 - P(Y = 0) \\ &= 1 - \frac{11}{6^2} = \frac{25}{36} \end{aligned}$$

X (和を5で割った余り)

	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	0	1	2
2	3	4	0	1	2	3
3	4	0	1	2	3	4
4	0	1	2	3	4	0
5	1	2	3	4	0	1
6	2	3	4	0	1	2

Y (積を5で割った余り)

	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	0	1
2	2	4	1	3	0	2
3	3	1	4	2	0	3
4	4	3	2	1	0	4
5	0	0	0	0	0	0
6	1	2	3	4	0	1

(2) $X = 2$, $Y = 2$ となる事象をそれぞれ A , B とすると, 上の表から

$$\begin{aligned} P(A \cup B) &= P(A) + P(B) - P(A \cap B) \\ &= \frac{8}{36} + \frac{6}{36} - \frac{2}{36} = \frac{12}{36} = \frac{1}{3} \end{aligned}$$

$$(3) P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{2}{36} \div \frac{8}{36} = \frac{1}{4}$$

8 箱 A, B の底面が合同な正方形であるから, その一辺を $2x$ cm とすると, 箱 A, B の高さはそれぞれ $12 - x$ cm, $18 - x$ cm であるから

$$2x > 0, \quad 12 - x > 0, \quad 18 - x > 0 \quad \text{すなわち} \quad 0 < x < 12$$

2つの箱の容積の和を V とすると

$$\begin{aligned} V &= (2x)^2(12 - x) + (2x)^2(18 - x) \\ &= 8x^2(15 - x), \\ V' &= 24x(10 - x) \end{aligned}$$

したがって, V の増減表は次のようになる.

x	(0)	...	10	...	(12)
V'		+	0	-	
V		↗	4000	↘	

よって, $x = 10$ のとき, 最大値 **4000 (cm³)**

$$\begin{aligned}
\text{9 (1)} \quad & \sin^2 \alpha + \sin^2 \beta + \sin^2(\alpha + \beta) \\
&= \frac{1}{2}(1 - \cos 2\alpha) + \frac{1}{2}(1 - \cos 2\beta) + 1 - \cos^2(\alpha + \beta) \\
&= 2 - \frac{1}{2}(\cos 2\alpha + \cos 2\beta) - \cos^2(\alpha + \beta) \\
&= 2 - \cos(\alpha + \beta) \cos(\alpha - \beta) - \cos^2(\alpha + \beta) \\
&= 2 - \{\cos(\alpha - \beta) + \cos(\alpha + \beta)\} \cos(\alpha + \beta) \\
&= 2 - 2 \cos \alpha \cos \beta \cos(\alpha + \beta)
\end{aligned}$$

$$\text{よって } \sin^2 \alpha + \sin^2 \beta + \sin^2(\alpha + \beta) + 2 \cos \alpha \cos \beta \cos(\alpha + \beta) = 2$$

$$\text{(2)} \quad a = \log_{\frac{1}{4}} 5 = -\frac{1}{2} \log_2 5, \quad b = 2 \log_{\frac{1}{2}} \sqrt{5} = -\log_2 5$$

$$2^{ac} = 5 \text{ より } ac = \log_2 5 \quad \text{これと上の第1式から } c = -2$$

$$\text{ゆえに } a = \log_2 \frac{1}{\sqrt{5}}, \quad b = \log_2 \frac{1}{5}, \quad c = \log_2 \frac{1}{4}, \quad \frac{1}{5} < \frac{1}{4} < \frac{1}{\sqrt{5}}$$

$$\text{底2は1より大きいから } \quad \mathbf{b < c < a} \quad \blacksquare$$

$$\text{10 (1)} \quad f(0) = c, \quad f(1) = a + b + c, \quad f(2) = 4a + 2b + c \text{ であるから}$$

$$2a = f(0) - 2f(1) + f(2), \quad 2b = -3f(0) + 4f(1) - f(2)$$

$f(0), f(1), f(2)$ はいずれも整数であるから, $2a, 2b$ はともに整数である.

$$\text{(2) (i) } n \text{ が偶数のとき, } n = 2m \text{ とおくと (} m \text{ は整数)}$$

$$f(n) = f(2m) = a(2m)^2 + b(2m) + c = 2a \cdot m^2 + 2b \cdot m + c$$

(1) の結果から, $2a, 2b, c$ は整数であるから, $f(n)$ は整数.

$$\text{(ii) } n \text{ が奇数のとき, } n = 2m + 1 \text{ とおくと (} m \text{ は整数)}$$

$$\begin{aligned}
f(n) &= f(2m + 1) = a(2m + 1)^2 + b(2m + 1) + c \\
&= 2a(2m^2 + 2m) + 2b \cdot m + a + b + c \\
&= 2a(2m^2 + 2m) + 2b \cdot m + f(1)
\end{aligned}$$

同様に, $2a, 2b, f(1)$ は整数であるから, $f(n)$ は整数.

別解 $f(n + 1) - 2f(n) + f(n - 1) = 2a$ より, $2a, f(0), f(1)$ が整数であるから, すべての整数 n について, $f(n)$ は整数となる. \blacksquare

11 (1) $\triangle ADC$ と直線 PE について、メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AP}{PD} \cdot \frac{DB}{BC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{AP}{PD} \cdot \frac{m}{m+n} \cdot \frac{m}{n} = 1$$

$AP : PD = n(m+n) : m^2 \cdots \textcircled{1}$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{AP} &= \frac{n(m+n)}{m^2+mn+n^2} \vec{AD} = \frac{n(m+n)}{m^2+mn+n^2} \cdot \frac{n\vec{AB} + m\vec{AC}}{m+n} \\ &= \frac{n}{m^2+mn+n^2} (n\vec{AB} + m\vec{AC}) \end{aligned}$$

A, B, C, P, Q, R の位置ベクトルをそれぞれ $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \vec{p}, \vec{q}, \vec{r}$ とすると

$$\begin{aligned} \vec{p} - \vec{a} &= \frac{n}{m^2+mn+n^2} \{n(\vec{b} - \vec{a}) + m(\vec{c} - \vec{a})\} \\ \vec{p} &= \frac{m^2\vec{a} + n^2\vec{b} + mn\vec{c}}{m^2+mn+n^2} \end{aligned}$$

A, B, C と P, Q, R の対称性により

$$\vec{q} = \frac{m^2\vec{b} + n^2\vec{c} + mn\vec{a}}{m^2+mn+n^2}, \quad \vec{r} = \frac{m^2\vec{c} + n^2\vec{a} + mn\vec{b}}{m^2+mn+n^2}$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad \vec{RP} &= \frac{m^2\vec{CA} + n^2\vec{AB} + mn\vec{BC}}{m^2+mn+n^2} \\ &= \frac{-m^2\vec{AC} + n^2\vec{AB} + mn(\vec{AC} - \vec{AB})}{m^2+mn+n^2} \\ &= \frac{n-m}{m^2+mn+n^2} (n\vec{AB} + m\vec{AC}) = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2} \vec{AD} \quad \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$$\text{同様に} \quad \vec{PQ} = \frac{n-m}{m^2+mn+n^2} (n\vec{BC} + m\vec{BA}) = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2} \vec{BE}$$

$$\vec{QR} = \frac{n-m}{m^2+mn+n^2} (n\vec{CA} + m\vec{CB}) = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2} \vec{CF}$$

このとき、 $|\vec{AD}| = |\vec{BE}| = |\vec{CF}|$ であるから

$$|\vec{RP}| = |\vec{PQ}| = |\vec{QR}| \quad \text{よって} \quad \triangle PQR \text{ は正三角形}$$

$$(2) \textcircled{1} \text{ より} \quad \frac{AP}{AD} = \frac{n(m+n)}{m^2+mn+n^2}$$

$$\textcircled{2} \text{ より} \quad \frac{RP}{AD} = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2}$$

$$\frac{AR}{AD} = \frac{AP}{AD} - \frac{RP}{AD} = \frac{m(m+n)}{m^2+mn+n^2} \quad \text{よって} \quad AR : AP = m : n \quad \blacksquare$$

12 (1) 漸化式 $a_{n+1} = \frac{1}{2 - a_n}$ より

$$a_2 = \frac{1}{2 - a_1} = \frac{1}{2 - \frac{q}{p}} = \frac{p}{2p - q},$$

$$a_3 = \frac{1}{2 - a_2} = \frac{1}{2 - \frac{p}{2p - q}} = \frac{2p - q}{3p - 2q},$$

$$a_4 = \frac{1}{2 - a_3} = \frac{1}{2 - \frac{2p - q}{3p - 2q}} = \frac{3p - 2q}{4p - 3q}$$

(2) (1) の結果から

$$a_n = \frac{(n-1)p - (n-2)q}{np - (n-1)q} \quad \dots (*)$$

と推定される.

[1] $n = 1$ のとき, $a_1 = \frac{q}{p}$ となり, (*) は成り立つ.

[2] $n = k$ のとき

$$a_k = \frac{(k-1)p - (k-2)q}{kp - (k-1)q}$$

が成り立つと仮定すると

$$a_{k+1} = \frac{1}{2 - a_k} = \frac{1}{2 - \frac{(k-1)p - (k-2)q}{kp - (k-1)q}} = \frac{kp - (k-1)q}{(k+1)p - kq}$$

よって, $n = k+1$ のときも (*) は成り立つ.

[1], [2] より, すべての自然数 n について (*) は成り立つ.

補足 与えられた漸化式の特徴方程式 $x = \frac{1}{2 - x}$ を解くと $x = 1$

$$a_{n+1} - 1 = \frac{1}{2 - a_n} - 1 = \frac{a_n - 1}{2 - a_n} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{1}{a_{n+1} - 1} = \frac{1}{a_n - 1} - 1$$

したがって, $\left\{ \frac{1}{a_n - 1} \right\}$ は初項 $\frac{1}{a_1 - 1}$, 公差 -1 の等差数列であるから

$$\frac{1}{a_n - 1} = \frac{1}{a_1 - 1} - (n-1) = \frac{1}{\frac{q}{p} - 1} - n + 1 = \frac{np - (n-1)q}{q - p}$$

ゆえに $a_n - 1 = \frac{q - p}{np - (n-1)q}$ よって $a_n = \frac{(n-1)p - (n-2)q}{np - (n-1)q}$ ■